



カーによっては化学合成油として扱われる場合もある。ただ、これを全部ベースオイルとしてしまうと、オイル性能はPAOには満たないという。

「一般的にエンジンオイルには独特の臭いがあるのは、「存知だ」と思います。あれは主に添加剤臭と言えるでしょう」

ニューテックの場合、ベースオイル独特の香りがするが、異臭や油臭さはない。これは独自に配合したエステル成分の臭いであり、異臭とは無縁のオイルなのである。

実際の性能はどうか

NC40もNC50も一般市販されているオイルだが、ニューテックもレースでは特別なオイルを作るのだろうか。

「いいえ、店頭のオイルをそのまま使ってもらっています。ニューテックの考えとしてオイルを買ってくださるお客様こそが、第一の存在です。それに対して特定のチームだけにレース用として特別なオイルを供給することは、ニューテックオイルを買っていただい

ている一般のユーザーさんに対して失礼になってしまうからです」

現在、TSRと桜井ホンダなどのJSBマシンがニューテックを使用しているが、スプリントレースの全日本の際は、NC50シリーズをそのままブレンドして使用している。ただし、夏の鈴鹿8耐の場合にはNC40シリーズをブレンドして使っているという。その理由は、8耐が夏場の長時間レースということから、エンジンの潤滑だけを考えればNC50シリーズで問題はないそうだが、エンジンの耐熱性やミッションタッチなどの駆動系の性能を考慮してのことだ。

市販用のオイルがそのままレースの最高峰で使われているのだ。では、一般使用を考えたときはどうだろう。CBRのようなスポーツに求められるオイルとはエンジンがよく回り、ミッションタッチが変わらず、何よりも交換サイクルが長いという点が上げられる。

「もし、いいオイルは定期的に早く交換する必要があると推奨するメーカーがあれば、そ

れは売る側の勝手な言い分であり、違うと思います」と鳩谷氏は言う。

ニューテックの販売手法は独特で、量販店での販売は行なっていない。ニューテックを理解した販売店を通じてしか売らないやり方をあえてとっている。これは、ユーザーの声がニューテックに届くようにしたいと考えているからだ。

「確かに量が売ればうれしいですが、それが長続きするかと言えは疑問です。また悪い点があればユーザーの声を聞きたいし、それを元に改善して行きたいと思っています」と鳩谷氏。

レースという奇酷な環境を通じて得られたデータが、市販用オイルに生かされるという図式が一般的だ。しかし、ニューテックは一般のユーザーが手にすることができるオイルをそのままレースで使っている。この姿勢こそが、ニューテックのオイルに対する考え方と性能に対する自信を、何より現わしていると言えるのではないだろうか。



もともとはエンジン技術者として4輪用レースエンジンの開発に取り組んでいたニューテック代表の鳩谷和春氏。オイルに対して豊富な知識を持つ人物だ